

聖霊降臨の主日の説教

金 大烈 神父 2009年5月31日(日)

《聖霊は愛のエネルギーです》

(国際ミサ)

おはようございます。(韓国語、ポルトガル語、スペイン語、英語、ベトナム語、インドネシア語でも挨拶する。以下、シスター・毛利のポルトガル語の通訳が入る。)

昨夜の第一回マリア祭に予想もできなかった人数が集まって、賑やかにマリア様のお祝いのできたことを本当に感謝します。初めてのことなので慣れていないところがあったのですがそれでも皆様に良い体験になったと思います。もし足りないところがあったらそれを経験として生かして、来年はもっときれいなお祭りになるのではないかと思います。とにかくマリア祭のために生け花から掃除など色々な仕事を心を込めてして下さいました方々に感謝いたします。そして皆様にも感謝いたします。皆様のために拍手をお願いします。

説教に入ります。初めの共同体の教会、イエス様が復活されてから作られた共同体について考えてみましょう。

皆様ご存知のように、初めの共同体の信者はたくさん、ローマのコロッセウムというところで殉教しました。ライオンなどの獰猛な動物や色々な武器によって殺されました。そのとき殉教された信者はイエス様に直接会った人は一人もいませんでした。全員、イエス様にあったことはなかったのです。しかし彼らは一回も会ったことのないイエスという人物のために自分の命を捧げました。ところがイエス様が生きておられたとき一緒に暮らした弟子たちはいつも裏切りばかりでした。どういうことでしょうか？直接イエス様のみ言葉とか振る舞いとか御心がわかっている弟子たちはいつも背いて、彼についていくことができなかつたのはなぜでしょう。なぜ一回も会ったことのない人たちがコロッセウムというところで自分の命を捧げながら信仰を守ったのでしょうか。ただひとつの理由です。

イエス様が生きておられたときは聖霊様が働いていない時代でした。ですから弟子たちは自分の持っている力でなんとか乗り越えようとしたんですけど、人間的な弱さによって転んでしまったのです。しかし初めての教会の殉教者たちは直接イエス様に会わなかったのですが、聖霊の働きによって変わらない深い信仰ができました。そういうことによって、聖霊の降臨の体験によって弟子たちも自分たちの持っていた弱さを全部捨てて、平らな心でイエス様について行って死ぬことができたのです。皆様が本当の信仰の味、御聖体の味、教会の教えの味をわかるためになにより必要なのは聖霊様の助けです。そういう意味で聖霊様が自分の心の中で働くようにその席を空けておかなければなりません。空けておくとはどういうことでしょうか？

まず弱さを認めて下さい。「自分の力ではいつも転びます。」という弱さを認めて下さい。「私は貧しい心です。」という告白が必要です。「あなたの助けがなければ何もできません。」という従順な心が必要です。聖霊様が働きにくいところは傲慢な心です。ただ注がれるのを受けて下さい。たまにこのように質問されます。皆様も同じような質問をされたことがあると思います。「神様とかイエス様については何とか理解できる。でも聖霊って何でしょうか？」という質問をされます。これからはこのような質問をされたときはつぎのように答えて下さい。

『聖霊様は御父とイエス様の間に動いている、働いている "愛のエネルギー" です。』もちろん十分な説明はできないんですけど、「神様でありながら御父と御子の間で御旨をはたせる力」です。忘れてはいけないことは、皆様はすでに聖霊を受けています。ただその聖霊様が働かれるように準備したらいいんです。厳しく申しあげます。聖霊様の体験ができなかつたら私たちは絶対に信仰の味を知らずに死んでしまいます。

違う話をします。今日の第一朗読（使徒言行録 2・1 - 11）で弟子たちが聖霊をいただき色々な国の言葉で話す様子が表されています。あるとき私は子供のような想像におちいったことがあります。それは太田教会に来てからのことです。幾つかの言葉でなくてあらゆる言葉が話せたらどんなに幸せになるだろうという気持ちでした。しかしそのような思いをした日の夜ひとつの悟りがありました。もちろん違う言葉を使うことで不便を感じます。しかし私たちは全ての国の人々に通じる言葉を持っています。人間って、互いにうれしい気持ちで受け入れているのか、嫌な気持ちで受け入れているのか、すぐわかります。そうでしょう。実際には同じ日本語を使いながらも通じない場合もあります。みんなに通じる言葉、それは何でしょう？『心』です。心は必ず通じます。文化の違い、国の違い、個人個人の性格の違いにもかかわらず心は通じます。

皆様、聖霊降臨の祝日に私たちはあらためて心の言葉を感謝しながらお互いに使いましょう。質問させていただきます。本当なら「はい」と教えてくださいね。

皆様はひとつの言葉を持っていますよね。「はい」その言葉で不便なところ、足りないところがあっても互いに愛しあいましょう。「は - い」

ありがとうございました。